

ワンポイント アドバイス

日当たり、風通しの
よい場所がgood!

シュンギクは日当たり、風通しのよい場所を好みます。寒さには比較的強く、簡易的なビニール被覆のトンネル栽培で冬越しできます。

土壌酸度にご注意!

シュンギクに適した土壌酸度はpH5.0~5.5です。必要であれば植え付けの2~3週間以上前に苦土石灰を散布して土壌改良をしておくといでしょう。肥沃で水はけ、水もちのよい、ふかふかとした土壌を好みます。

べと病に気をつけましょう!

べと病は葉に黄色みがかかった斑紋が現れ、だんだんと広がって枯れ上がっていくのが特徴です。気温差が大きい3~6月、9月下旬~11月に発生しやすくなります。気温などの条件が揃うと2~3日で全体に広がってしまうので注意しましょう。また、チッ素成分が多い肥料を与えすぎると発生しやすくなります。

有効な農薬



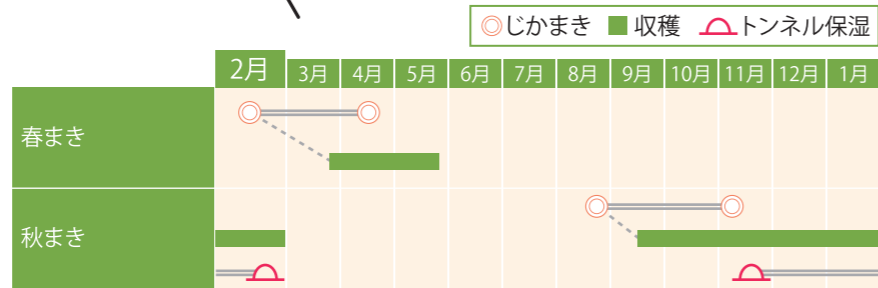
Zボルドー

糸状菌病害から細菌病害まで幅広い病害の予防に効果があります。

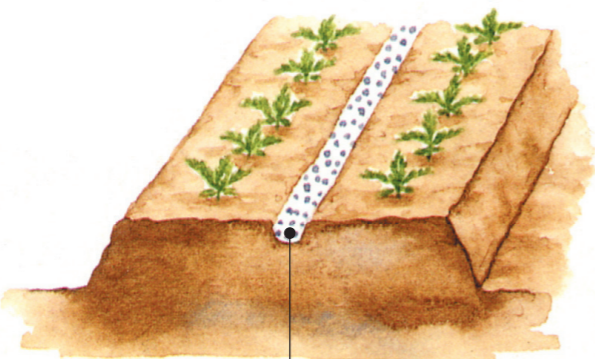
**お買い求め・ご注文は
お近くの営農経済センター
または支店まで!**

※売り切れなどの都合上、店舗に在庫がない場合がございます。あらかじめご了承ください。

栽培カレンダー



2 間引き・追肥



「やさい2号」(N・P・K=8・8・8)
1回につき40~50g/m²

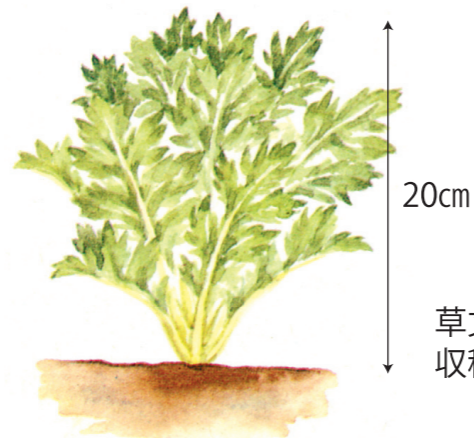
発芽後、込みすぎたところは間引いておきましょう。本葉1、2枚ころ1回目、本葉5、6枚ころ2回目の追肥をしましょう。500倍液肥を7~10日おきに与えてもよいでしょう。

3 防寒

遅まきで収穫が低温期になるときは、トンネルで保温しましょう。畝が乾いた時には十分に水をやりましょう。



4 収穫



草丈20cmくらいが
収穫適期



土に触れる安心、
育てる喜び、
収穫する感動、
食べる幸せ。

今日から始める家庭菜園

シュンギク

葉菜類・キク科

春に黄色の花を咲かせ、葉の形が菊に似ていることから、シュンギクという名が付けられました。独特の香りは食欲増進の効果があり、葉はサラダに、茎はおひたしによく使われます。



栽培のポイント

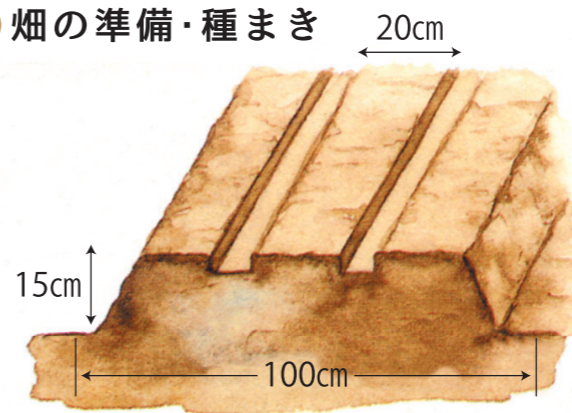


営農振興課
たけやま りゅう
竹山 瑠

- 発芽率は6割。多めにまいて、間引いて株間を広くとってください。
- 順次摘み取り収穫をして、わき芽を再度利用すると収穫を長く楽しめます。

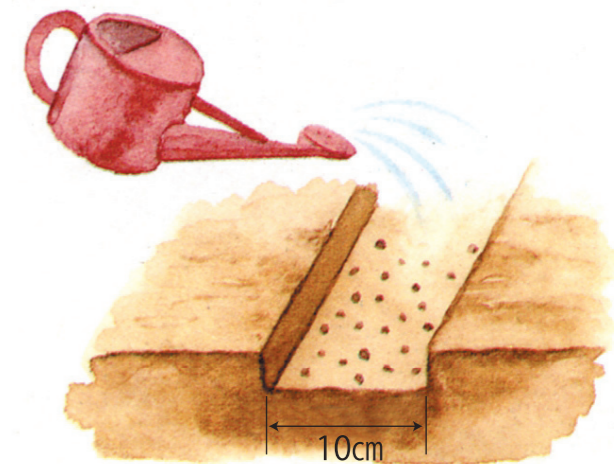
栽培方法

1 畑の準備・種まき



シュンギクは根が浅いですが、よく耕して水はけをよくしましょう。10cm程度のまき溝をつけておきましょう。砂地では畝は低くしておきましょう。

元肥
「やさい1号」50~60g/m²
(N・P・K=12・10・12)



種はまき溝いっぱいにはばらまきし、ごく薄く覆土しましょう。覆土後十分に水やりをしましょう。